



あつという間にたってしまう1ヶ月もあれば、長くて長い1ヶ月もあります。今月は先月の通信を出してからすぐに友人と山に行き、山頂まで達してからひたすら向こう側の谷を下ってきた。広大な県営ロッジに併設された避難小屋に泊まったが、アプローチのトンネルが崩壊寸前で、誰もこられないから誰もいない。だから、大きな庭園でゆっくり夕飯を作って、山賊の酒盛りのようなことをしていても、鹿が何頭か遠巻きにわれわれを無視しながら悠然と、まあ、怒っていたかもしれないが、草を食んでいるだけで、酔っ払って大声で歌ったり騒いだりしたが、鹿にとったら、迷惑な話だっただろう。

翌朝も鹿に囲まれていたので川原で飯を食った後ひたすら谷を下った。途中、トンネルの入り口に

達すると、鉄格子、鉄条網、南京錠で、ぴつたりと閉鎖されており、こいつは、山超えるかと戻りかけたが、思い直して脇のがけっぱい斜面を降りて、遠回りして一部落っこちながらも通ってしまった。穏やかな大きな川原が広々と光をいっぱい浴びて輝いているのどかであった。

そうかと思うと、近所のおとつあんを集めて自転車で千住の魚市場から、その先のこづかっぱらあたりまで行き、また、魚市場の食堂に戻り、朝から一杯やって、切ってもらったマグロを抱えて千住の街道筋の見学をしながら荒川放水路の土手で飲んで騒いで帰ってくるというガキ大将状態。

先週は、町内の植木の薬剤散布の合間をぬって、日比谷公園でのアフリカンフェスタに参加、もう盛大なお祭りで、ブリキナファソという国のヘマタイトという黒光りする貴石のネックレスや、ケニアのサイザルのバック、その他様々な布類、雑貨を売りながらアフリカへの援助についての宣伝。ほとんどテキヤみたいなものだ。夕方、アフリカンフェスタの会場からバングラの仲間たちと逃げようとしていたら、青年協力隊のOVの女の子が「あー！うちの不良たちがまとまって逃げようとしていまーす。」とうしろから大声が追ってくるのを「パーロ」と言いつつ振り払って、有楽町のガード下へ出撃、ビール箱をひっくり返したテーブルで、千円札をにぎりしめて楽しく飲む。

そして昨日までの三日間、東京ビックサイトでのエコグリーンテック2007（環境・緑化産業展）へ出店、朝から晩まで立ってアジアやアフリカの話を話したり聞いたりしていました。ビックサイトは常にお祭り状態で、色々な催し物をやっているから、行って見るとおもしろい。立っているのは大変だが、お祭りだと思えばいいし、必ず気持ちの通じるお客さんもいて、じっくり話し合うチャンスもあるからうれしい。終わればいつものようにユリカモメで新橋へ出て飲むわけだ。まあ、不良中高年としたら正しい反応だが、一番前のガラスにひっついて、もうみんな60にもなるとうのに大喜び、困ったことだ。飲み屋は駅前の「くまもと」。こういう時しか来ないけれども、もう何十年も来ている店で、入ったらふっと昨年亡くなった宇井純さんのことを思い出した。そうだ、あの時以来だったのだ。夕方、私の講演が終わったら友人が「宇井さんに会場でゆっくり待っていてもらっているから早く飲みに行こう。」といわれてあのときもにぎやかにユリカモメで新橋へ出撃したが、沖縄大学の雨水を利用したトイレの話や、バングラのトイレの話、女の立ちションベンにどう対応するか、など、にぎやかに話したことがついさっきのように思い浮かんで、まだ生きているような錯覚がする。人は、形がなくなっても、それを知っている人が消えてしまわない限り、いなくなるのだと改めて思います。しかしにぎやかな月でした。さあ、仕事しよう。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03 5600 0195 高村 哲